

(別紙)

放射線医学総合研究所発達期被ばく影響研究グループグループリーダー
島田義也

① 先生のご意見の骨子を箇条書きにしてください (5行以内)。

大切なこと

1. 相手の立場に立って、エビデンスに基づいた正しい (国際的にコンセンサスの得られている) 情報を丁寧にやさしく説明すること。
2. 放射線に関係した情報 (線量など) は、数値として公表すること。
3. 関係者が話し合っテコミュニティの将来について最大公約数を選ぶこと。
4. 今回の事故で心配な健康影響は「がんリスクの増加」ですが、今後除染を進めることもあり、今の数値で判断すればあったとしても小さいと推測されます。さらにがんは予防できる病気です。
5. 国際機関に情報をすばやく提供し、国際的なコンセンサスを早くつくること。

② 先生のご意見の根拠となった文献を10編列挙して下さい (10編以内)。

科学的なエビデンスについては、

1. ICRP 2007. The 2007 Recommendations of the international commission on radiological protection. ICRP Publication 103.
2. UNSCEAR 2008. United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiations. Health effects due to radiation from the Chernobyl accident. 2008 Report to the general assembly with a scientific annex. United Nation, New York.
3. Preston DL, Cullings H, Suyama A, et al. (2008) Solid cancer incidence in atomic bomb survivors exposed in utero or as young children. J Natl Cancer Inst. 100, 428-436.
4. Preston DL, Ron E, Tokuoka S, et al. (2007) Solid cancer in atomic bomb survivors: 1958-1998. Radiat. Res. 168, 1-64.
5. Ron E, Lubin JH, Shore R, et al. (1995) Thyroid cancer after exposure to external radiation: A pooled analysis of seven studies. Radiat Res 141, 159-277.
6. Brenner AV, Tronko MD, Hatch M, et al. (2011) I-131 dose response for incident thyroid cancers in Ukraine related to Chornobyl accident. Environmental Health Perspectives, on line 17 March.
7. Cardis E, Kesminiene A, Ivanov V et al. (2005) Risk of thyroid cancer after exposure to 131-I in childhood. J Natl Cancer Inst. 97, 724-732.
8. ICRP 2009. Application of the commission's recommendations to the protection of people living in long-term contaminated areas after a nuclear accident or a radiation emergency. ICRP Publication 111.
9. 講演会に参加して下さった方のたくさんのご意見。

③ 国民、特に福島県民の方々がご理解頂けるように、できるだけ平易な言葉で先生のご意見を400字程度でまとめて下さい。

放射線の線量や被ばくについて徐々にではありますが、数字が出てきました。公表された数字をみるかぎり、食品からの1年間の内部被ばく線量は小児でも平均0.136mSvと推定されており、食品中の天然（自然）の放射線レベル（0.4mSv）より低い値でした。今後は、セシウムからの慢性的な外部被ばくに対して対策を進める必要があります。除染については多くの関係者（住民の方だけではなく、医療関係者や教育関係者、地元の産業を支えている方、心理カウンセラー、法律家、行政、政治家、研究者など）で意見を交換して、除染の優先順位などコミュニティとして最大公約数をさがすことが大切だと思います。また、心配される健康影響はがんです。この線量では、がんリスクの増加は観察できないくらい小さなものと推測されます。また、がんは予防できる病気でもあります。お子様にバランスのとれた食生活、適度な運動、そして大人になってからたばこを吸わないように教育することが大切です。